



平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

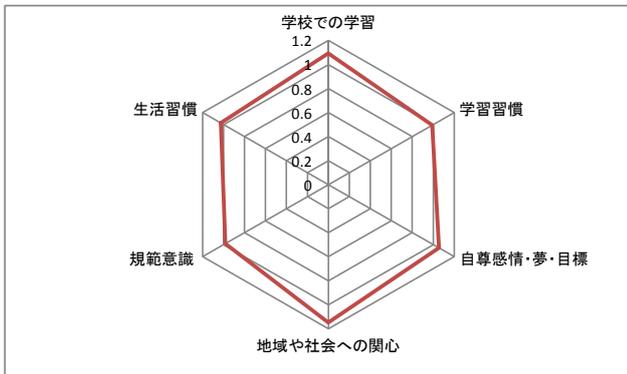
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・どの領域や観点とも全国平均を大きく上回っている。特に領域「書くこと」や観点「書く能力」は顕著である。日常から書くことについての指導の積み重ねの成果であると考え。今後も継続的な指導を行う。	上回っている
国語B	・どの領域や観点とも全国平均を大きく上回っている。特に領域「書くこと」や記述式の問題は顕著である。日常から書くことについての指導の積み重ねの成果であると考え。今後も継続的な指導を行う。	上回っている
算数A	・どの領域や観点とも全国平均を大きく上回っている。特に領域「数と計算」や「図形」は顕著である。基礎基本に重点をおいて補充学習を積み重ねた成果であると考え。今後も継続的な指導を行う。	上回っている
算数B	・どの領域や観点とも全国平均を大きく上回っている。特に領域「数と計算」や「図形」と記述式の問題は顕著である。応用問題や記述式問題に対しても、苦手意識をもち、粘り強く取り組むことができるようになってきている。今後も継続的な指導を行う。	上回っている
理科	・どの領域や観点とも全国平均を大きく上回っている。特に、観点「自然事象への関心・意欲・態度」は顕著である。また、無回答率が極めて低く、苦手意識をもち、粘り強く取り組むことができるようになってきている。今後も継続的な指導を行う。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や社会への関心が全国平均よりも高く、地域の行事等へ楽しみながら参加している児童が多い。</li> <li>・家で、自分で計画を立てて勉強をしている児童は全国平均よりも高い。今後は家庭学習の質を向上させていくことが必要である。</li> <li>・将来の夢や希望をもっている児童は全国平均よりも高い。今後はそれぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。</li> </ul>

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・基礎的・基本的な学力向上のため朝の学習の時間に取り組む内容を曜日ごとに決め、全校で一斉に実施。
- ・担任外教諭による少人数指導や個別指導を計画的・継続的に実施。基礎学力定着のために3年生全児童を対象としたひまわり学習塾の実施。
- ・学力定着サポートシステムの学習プリントを朝自習に活用し、基礎基本の定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭教育学級の講座や特設授業を保護者や児童に行い、テレビゲーム等メディアの接触について指導・啓発を行う。PTA協議会が行っている「ケータイ夜10時電源OFF運動」の周知を行い、PTAと一緒に啓発を進める。
- ・学級懇談会や個人懇談会、学校だより等を通して、家庭学習や読書の価値を保護者に伝え、その徹底を図る。